

第102期 中間報告書

2009年11月1日～2010年4月30日



OHARA®

株式会社 オハラ

株主の皆様へ



最高品質の先進素材を提供し、
世の中の技術革新に貢献して
まいります。

代表取締役社長

齋藤 弘和

株主の皆様におかれましては、ますます
ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼を
申しあげます。

ここに、第102期中間（2009年11月1日～
2010年4月30日）報告書をお届けいたします。

今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜り
ますよう、心よりお願い申し上げます。

当上半期の業績について 教えてください。

当上半期の世界経済は、欧州を中心とした財政不安が見られたものの、各国の景気刺激策の効果から、景気は緩やかな回復基調を示しました。雇用情勢は依然として厳しい状況が続きましたが、個人消費や設備投資には回復傾向が見られました。わが国経済も雇用情勢は厳しいものの、アジア向け輸出は伸長しました。また、中国やインドなど新興国では引き続き景気は拡大しました。

このような状況下において、当上半期の連結売上高は130億9,000万円 で前年同期比45.0%の増収、経常利益は16億400万円（前年同期は3億3,700万円の損失）となりました。主な要因としては、売上面において、一眼レフカメラ用交換レンズの需要が堅調に推移したことや、ハードディスク用ガラス基板材の出荷が大幅に拡大したことなどが挙げられます。また、損益面では、需要の回復に伴って生産設備の稼働率が大幅に改善したこと、原価低減活動による費用削減効果も加わりました。

<光事業>

デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプでは新興市場を中心に需要が増加し、一眼レフタイプや交換レンズも主要市場で需要の堅調な伸びを示しました。また、従来のコンパクト、一眼レフに加えて、新たにミラーレス一眼の市場も形成しつつあるなど、活況を呈しています。以上を受けた、当上半期実績ですが、特に交換レンズ向けの光学ガラスが大幅な増産となり、業績回復の一番の要因となりました。

一方、デジタルカメラ以外の用途としましては、プロジェクター市場の堅調な推移が挙げられます。文教用途を中心に安定的な需要があるほか、3D映画の普及に伴って、映画館では、3Dデジタルシネマプロジェクターへの設備入替が急速に進んでいます。当社では、このプロジェクター向けにプリズム及びレンズ用の光学ガラスを納入しており、特にプリズム用光学ガラスは他社では生産できない製品となっています。

<エレクトロニクス事業>

まず、ハードディスク市場ですが、ノートパソコン需要を背景に活況が続いています。当社のハードディスク用ガラス基板材は、前年同期はリーマンショックにより需要が大幅に減少いたしました。前年下半期以降回復に転じ、当上半期でもマレーシアの工場においては1,300名が3交替で操業するなど、フル生産が続いています。

次に、特殊ガラスですが、液晶パネルメーカーの設備投資回復により、液晶用露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要が増加しました。また、半導体用露光装置向けの高均質光学ガラスにつきましても、プリント基板など電子部品の作成に使用される簡易的な露光装置の伸びに伴って需要が増加しました。

最後に、石英ですが、TFT液晶プロジェクター向けの基板が好調に推移したほか、液晶露光装置向けの光学材も堅調に推移しています。

通期の業績見通しならびに 今後の事業戦略について教えてください。

まず、通期の業績予想ですが、最近の業績動向を踏まえ、当上半期の決算発表と同時に修正しています。

修正後の売上高予想は275億円（前期比41.1%の増収）です。光事業では一眼レフカメラ用交換レンズ向け光学ガラス製品、エレクトロニクス事業ではハードディスク基板材の需要が、当上半期に引き続き堅調に推移することが予想されます。

また、損益面につきましても、当上半期同様、収益性の改善が見込まれることから、各段階利益とも前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。修正後の経常利益は31億円（前期は△7億3,600万円）です。

通期の見通し

（単位：百万円）

	第101期 通期実績	第102期 通期修正予想 (2010/6/10)	増減率 (対前期実績)	第102期 通期当初予想 (2009/12/17)	増減率 (対当初予想)
売上高	19,490	27,500	41.1%	25,000	10.0%
売上総利益	4,519	8,300	83.7%	6,600	25.8%
[売上総利益率]	23.2%	30.2%		26.4%	
営業利益	△605	3,000	-	1,400	114.3%
[営業利益率]	-	10.9%		5.6%	
経常利益	△736	3,100	-	1,500	106.7%
[経常利益率]	-	11.3%		6.0%	
当期純利益	△1,848	2,000	-	900	122.2%
[当期純利益率]	-	7.3%		3.6%	
為替レート					
円/1 USD	94.38	90.00		88.00	
円/1 EUR	128.70	110.00		130.00	

＜光事業＞

デジタルカメラ市場は、足元におけるカメラメーカー各社の出荷計画は非常に力強く、前年より市場が回復するのはほぼ間違いのないと思われます。ただ、当社としましては、若干足元の計画が強すぎるとの思いも抱いており、コンパクトタイプを中心に一時的に調整が入り、市場全体としての伸び率は鈍化する可能性もあると懸念しています。しかしながら当社の光学ガラスが特に関連する一眼レフカメラ用交換レンズにつきましては、長期的に見ても、ここ数年間は年率15%で力強く成長すると見られています。また、製品単価が比較的高いことから、その需要の中心は当面アメリカやヨーロッパ諸国などの先進国と見られており、その後の新興国需要の盛り上がりも期待されます。

このような中、光学ガラスに求められるニーズとしては、レンズユニットの軽量コンパクト化を実現するための高い屈折率、レンズの明るさなど高画質を支える高い透過率、高度な光学設計を可能にする異常分散性などがあります。また、レンズへの加工性という観点からは、非球面レンズ向けの低Tg光学ガラスや、研削屑削減のためのファインゴブ、ダイレクトプレスといった最終製品に近い納品形態が求められています。これらは、中国メーカーとの差別化を図る上で重要な要素であり、当社としても、顧客ニーズにあった高付加価値製品を積極開発していきたいと考えています。一方、汎用品につきましては、中国材の活用を進めることで、ボリュームゾーンの獲得に引き続き注

力していきます。

一方、プロジェクター市場も堅調に推移すると予想され、3Dシネマプロジェクターにつきましても、安定した受注が見込まれています。

＜エレクトロニクス事業＞

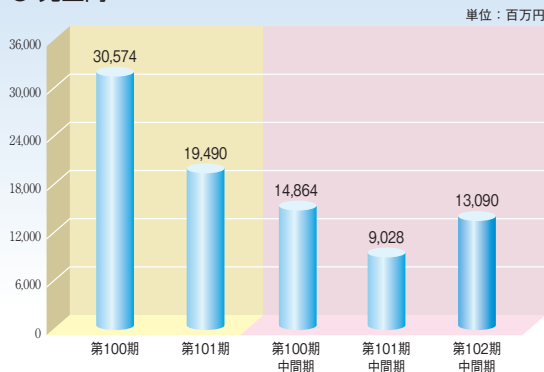
ハードディスク市場は、引き続き活況が続くと見込まれ、特にガラス基板材は逼迫した状況が当面続く見込です。長期的に見ましても、ハードディスク市場は2016年頃まで成長が続くと見られており、ガラス基板材の市場規模は現在の倍程度になると予想されています。このため、当社としましては、マレーシアにある製造工場へ追加投資を行うなど、製造能力の強化を積極的に進めていきます。また、現在品質、コスト両面に優れた新しいガラス材料の開発も進めており、顧客に評価をいただいています。なお、損益面につきましては、当下半年に熔解炉の改修が重なることから、一時的に減速を見込んでいます。

特殊ガラスですが、半導体露光装置や液晶露光装置市場につきましては、市場自体の回復は進んでいたものの、顧客在庫の関係から当社需要の回復が遅れていました。それが、当上半期からようやく実需へ繋がってきており、下半年におきましても回復傾向は続く見込です。特にプリント基板など電子部品の作成に使用される簡易的な露光装置に使用される高均質光学ガラスは伸びが期待されます。

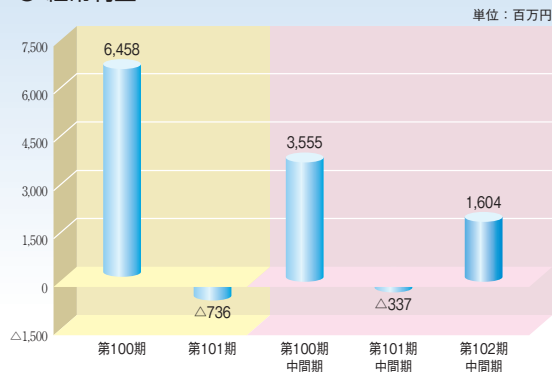
最後に石英ですが、TFT液晶プロジェクター向け基板、

連結財務ハイライト

● 売上高



● 経常利益



液晶露光装置向け光学材とともに、堅調な推移が期待されます。また、自社材とのシナジー効果の少ない組立加工品事業の譲渡を進めるなど、業績改善に向けた事業構造の改革も進めております。

株主の皆様へのメッセージを お願いします。

株主の皆様への利益還元につきましては、今後も業績が堅調に推移すると予想されることを踏まえ、期末配当予想を1株あたり15円から20円に修正させていただきました。

	1株あたり配当金(円)
前回予想	15.00
今回修正予想	20.00
前回実績(第101期)	15.00

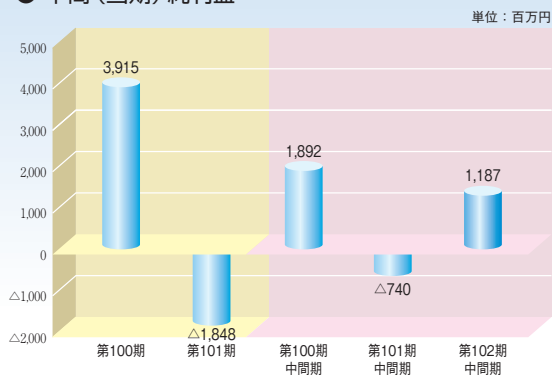
また、現在、当社では2010年を変革元年と位置づけ、以下の3つの基本方針に則った施策を進めております。

1. 「高付加価値製品への生産シフト」
2. 「中国材活用による低価格帯への対応力強化」
3. 「新製品・新事業育成による事業構造の変革」

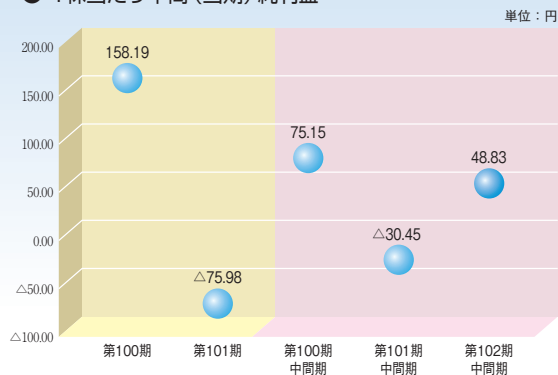
これらの背景には、光学ガラス分野における中国勢の躍進があります。中国のスピード、活力、バイタリティには目を見張るものがありますが、当社におきましても、新しいオハラに変わっていくために、一段高いスピード感をもって変革に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 中間(当期)純利益



● 1株当たり中間(当期)純利益



光学ガラス新製品を市場投入

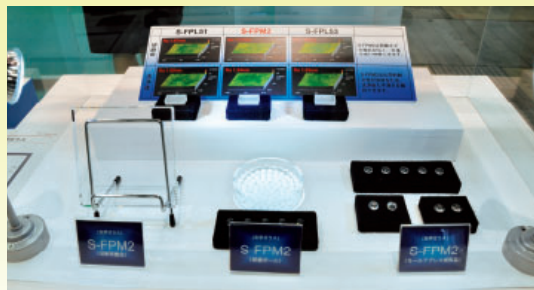
◆ 3月に高付加価値製品を2種リリース

当社の光学ガラスは、以前より業界トップクラスのラインナップを誇っておりますが、3月、新たに2種の光学ガラスをリリースしました。どちらもデジタルカメラなどの光学設計を行うにあたって有用な、魅力的な製品です。

中屈折率異常分散硝材 S-FPM2

S-FPM2は研磨・洗浄で取り扱い易く、研磨レンズ製造工程での負担を軽減できる光学ガラスです。更に、モールドプレス成形温度も低く、非球面レンズ加工にも優れています。

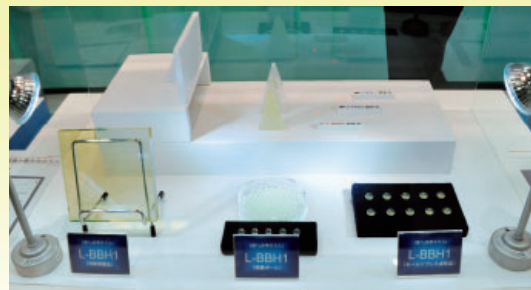
また、高度な光学設計に有用な異常分散性においても、特徴的な性能を有しているため、色収差の補正やレンズユニットのコンパクト化に効果を発揮します。



超高屈折率高分散硝材 L-BBH1

レンズユニットのコンパクト化には「非球面レンズ」や「高屈折率レンズ」の導入が効果的です。

L-BBH1は、これらの要望に応える高い屈折率 ($n_d: 2.1$) と、低いモールドプレス成形温度 (300℃台) を有する、新次元の光学ガラスです。超高屈折率非球面レンズ等、幅広い活用が期待されています。



光学設計とは

カメラなどの光学製品をつくるために、どのようなガラスを使って、どのような形状・枚数を組み合わせるかをデザインすることです。

ハードディスク用ガラス基板材の生産能力を更に増強

◆ 2011年7月に工場を1棟建設、月産2,100万枚体制へ

当社は、6月10日にハードディスク用ガラス基板材の生産能力について新たに増強することを決定いたしました。

すでに2010年9月を目標に現在の月産1,400万枚から1,800万枚へと増産する体制を確立すべく、当社製造子会社OHARA DISK (M) SDN.BHD. (マレーシア、マラッカ、当社100%出資) に16億円を投資して生産能力の増強を進めていますが、今回、新たに37億円を追加投資することとし、生産能力を2011年7月時点で、2,100万枚まで引き上げます。

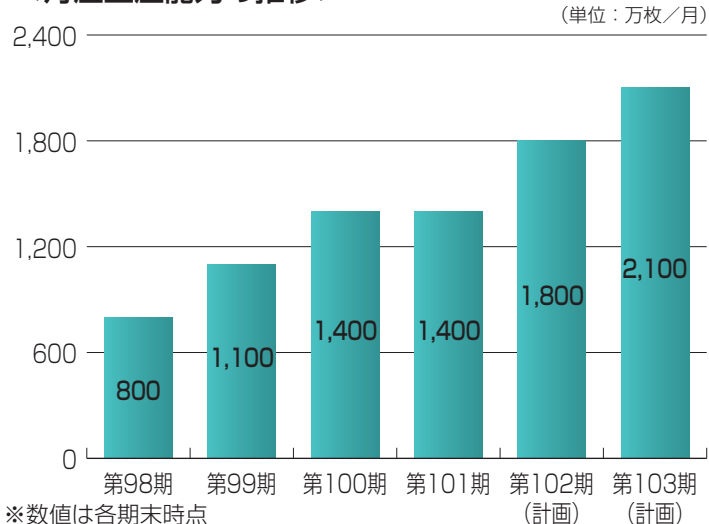
今回の増設投資では、現在の工場隣接地への工場棟の建設ならびに、本溶解の溶解炉1基の増設および現在は日本で行っている粗ガラスの溶解炉3基を設置します。

ハードディスク市場は、ノートパソコン向けを中心として今後も高い成長が見込まれており、当社のガラス基板材も需要動向に応じた生産体制の強化が求められております。

昨年12月の増産投資決定により、この秋より現在の生産能力を30%強化する方針でしたが、この事業環境の変化に対応し、能力増強の更なる追加投資という今回の決定となりました。この増設により、製造能力は現在の50%増となります。

当社では、生産設備の増強にとどまらず、ガラス基板開発におきましても、ハードディスク大容量化に適した次世代製品の開発にも積極的に取り組み、当事業での競争力強化に努めてまいります。

<月産生産能力の推移>



マレーシアにある生産拠点 OHARA DISK (M) SDN.BHD.

※写真の点線箇所は新工場増設スペース

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2010年4月30日)	前中間期 (2009年4月30日) (ご参考)	前 期 (2009年10月31日) (ご参考)	科 目	当中間期 (2010年4月30日)	前中間期 (2009年4月30日) (ご参考)	前 期 (2009年10月31日) (ご参考)
【 資 産 の 部 】				【 負 債 の 部 】			
流 動 資 産	25,358	22,269	23,335	流 動 負 債	8,987	8,931	9,827
現金及び預金	7,034	7,105	6,814	支払手形及び買掛金	3,035	1,454	2,121
受取手形及び売掛金	8,459	4,265	7,222	短期借入金	4,047	5,958	5,834
有価証券	2,007	1,705	2,006	1年内償還予定の社債	—	112	—
たな卸資産	6,863	8,183	6,437	未払法人税等	433	41	62
繰延税金資産	605	569	478	そ の 他	1,471	1,365	1,809
そ の 他	403	449	391	固 定 負 債	5,127	3,462	3,289
貸倒引当金	△ 15	△ 9	△ 16	長期借入金	2,248	901	773
固 定 資 産	29,114	30,593	29,032	繰延税金負債	1,339	654	973
有形固定資産	21,964	24,637	22,793	退職給付引当金	1,186	1,098	1,161
無形固定資産	64	65	57	そ の 他	352	808	381
投資その他の資産	7,085	5,890	6,181	負 債 合 計	14,115	12,394	13,117
資 産 合 計	54,473	52,863	52,367	【 純 資 産 の 部 】			
				株 主 資 本	40,704	41,019	39,870
				資 本 金	5,855	5,855	5,855
				資 本 剰 余 金	7,930	7,930	7,930
				利 益 剰 余 金	28,467	28,782	27,633
				自 己 株 式	△ 1,548	△ 1,548	△ 1,548
				評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 620	△ 1,169	△ 902
				そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,919	1,067	1,486
				為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 2,539	△ 2,237	△ 2,388
				少 数 株 主 持 分	274	619	283
				純 資 産 合 計	40,358	40,469	39,250
				負 債 純 資 産 合 計	54,473	52,863	52,367

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自 2009年11月1日 至 2010年4月30日)	前中間期 (自 2008年11月1日 至 2009年4月30日) (ご参考)	前 期 (自 2008年11月1日 至 2009年10月31日) (ご参考)
売 上 高	13,090	9,028	19,490
売 上 原 価	8,986	6,541	14,971
売 上 総 利 益	4,104	2,486	4,519
販売費及び一般管理費	2,622	2,610	5,124
営業利益（△損失）	1,481	△ 124	△ 605
営業外収益	167	363	565
営業外費用	44	577	696
経常利益（△損失）	1,604	△ 337	△ 736
特別利益	1	27	429
特別損失	5	56	1,290
税金等調整前中間（当期）純利益 （△純損失）	1,599	△ 366	△ 1,597
法人税等	402	478	712
少数株主利益（△損失）	10	△ 103	△ 461
中間（当期）純利益（△純損失）	1,187	△ 740	△ 1,848

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自 2009年11月1日 至 2010年4月30日)	前中間期 (自 2008年11月1日 至 2009年4月30日) (ご参考)	前 期 (自 2008年11月1日 至 2009年10月31日) (ご参考)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,510	3,103	3,571
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 558	△ 743	△ 895
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 688	757	364
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 40	△ 599	△ 676
現金及び現金同等物の増減額	223	2,519	2,364
現金及び現金同等物の期首残高	8,572	6,208	6,208
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	8,796	8,727	8,572

POINT

売上高

- ▶ 交換レンズ向け光学ガラス需要の大幅増
- ▶ ハードディスク用ガラス基板材需要の大幅増
- ▶ 半導体／液晶用露光装置向け特殊ガラスの需要回復

売上総利益

- ▶ 生産設備稼働率の大幅な向上（利益率1.1ポイント向上）
- ▶ 原価低減活動による費用削減（利益率2.8ポイント向上）

営業利益

- ▶ 販管費率の低減（前年同期比8.9ポイント低下）

経常利益

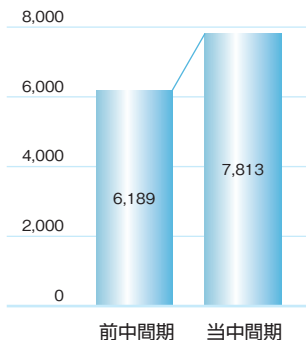
- ▶ 為替差益が発生（前年同期は為替差損）

セグメント別の概況

光事業

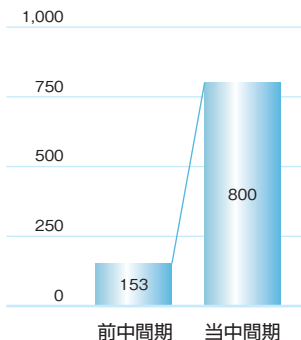
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



一眼レフデジタルカメラや交換レンズの需要が堅調に推移したことにより、レンズブランクスの需要が増加しました。また、損益面におきましても、需要の増加に伴う生産設備の稼働率向上により、大幅な回復が見られました。

主要製品

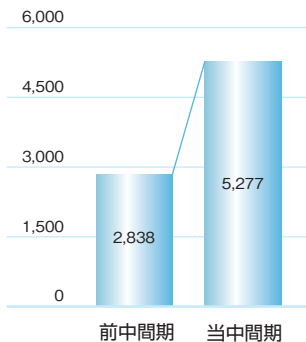


光学ガラス素材

エレクトロニクス事業

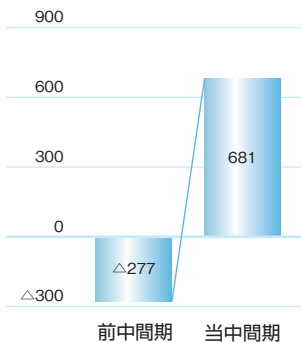
売上高

(単位：百万円)



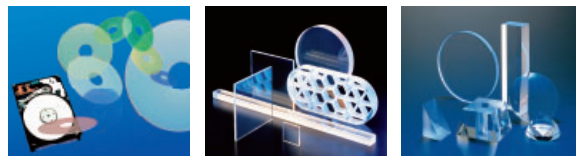
営業利益

(単位：百万円)



ノートパソコン用ハードディスクドライブ向けの需要が大幅に増加したことにより、ハードディスク用ガラス基板材は好調となりました。また、半導体／液晶用露光装置向け特殊ガラスの需要も回復し、石英もプロジェクター向け基板の需要増加等に伴い、堅調に推移しました。

主要製品



ハードディスク用ガラス基板材

特殊ガラス

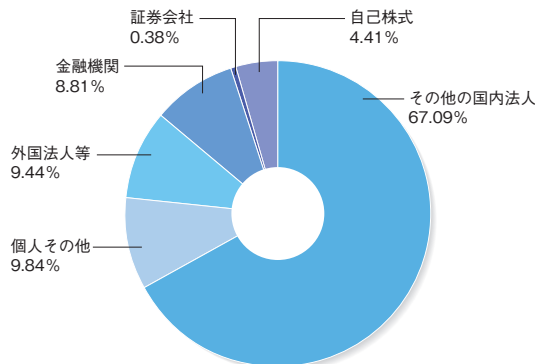
石英ガラス

■ 発行可能株式総数	76,000,000株
■ 発行済株式の総数	25,450,000株
■ 株主数	4,338名
■ 大株主	

株主名	持株数	持株比率	
		株	%
セイコーホールディングス株式会社	8,252,722		33.9
キヤノン株式会社	4,694,380		19.3
京橋起業株式会社	1,748,400		7.2
三光起業株式会社	1,638,300		6.7
株式会社トプコン	673,600		2.8
株式会社みずほ銀行	500,000		2.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	451,900		1.9
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	398,400		1.6
バンクオブニューヨーク・シーエムクライアントアカウント ジェイビーアールデイアイエスジー エフイー-エイシー	261,184		1.1
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	208,175		0.9

(注) 持株比率は自己株式(1,124,284株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式数分布状況



●取締役・監査役

代表取締役会長	油谷純正	(経営全般)
代表取締役社長	齋藤弘和	(経営全般、営業担当)
専務取締役	関戸仁	(生産、技術担当)
常務取締役	若杉覚	(業務監査、総務担当 兼 総務部長)
常務取締役	中島隆	(経営企画、経理担当 兼 経理部長)
取締役	広瀬孝二	(製造部長)
取締役	青木哲也	(人事部長)
取締役	山村勝美	
取締役	中村敏宏	
取締役	眞榮田雅也	
常勤監査役	馬渡正秀	
監査役	高木晴彦	
監査役	大澤正宏	

会社概要

2010年4月30日現在

商号	株式会社オハラ
所在地	〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30 ※2010年4月1日より相模原市政令指定都市移行に伴い、郵便番号と住所が上記に変更となりました。 TEL 042-772-2101 (代表) FAX 042-774-1071 ウェブサイト http://www.ohara-inc.co.jp/
創立	1935年10月1日
資本金	58億5千5百万円
事業内容	光学及びエレクトロニクス関連向けガラス素材の製造・販売
従業員数	440名(グループ全体2,818名)
グループ会社	台湾小原光学股份有限公司 OHARA OPTICAL (M) SDN.BHD. 小原光学(中山)有限公司 OHARA DISK (M) SDN.BHD. 株式会社オーピーシー 株式会社オハラ・クオーツ Ohara Corporation OHARA GmbH 小原光学(香港)有限公司 足柄光学株式会社

株 主 メ モ

事業年度 剰余金の配当基準日	毎年11月1日～翌年10月31日 10月31日 (中間配当を行う場合は4月30日)
定時株主総会 単元株式数	毎年1月下旬 100株
株主名簿管理人 事務取扱場所 公告方法	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 電子公告 (http://www.ohara-inc.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご 注 意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 株券電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **5218**

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00～17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com